

# 【事業名】九州島の絶滅危惧シダ植物の生育域外保全

(熊本県山鹿市、同八代市、同多良木町、同水上村、同天草市、同苓北町。佐賀県伊万里市。)

熊本大学薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター

平成30年度 生物多様性  
保全推進支援事業  
実績報告書別紙 9 - 6

## 事業の背景・目的

シカ食害を主な原因として、九州島のシダ植物はシカ食害を主な原因として希少化が進行している。放置すれば、その多様性が失われることにより、生態系の破壊をはじめ様々な影響が出ることが考えられる。本事業では、九州島に生育する国内希少野生動植物種であるキリシマイワヘゴ、ヒュウガシケシダ、クマヤブソテツ、フクレギシダ、サクラジマイノデの調査と生育域外を実施することを目的としている。

## 事業の内容

以下の三つの事業を行った。中心となるのは事業②である。

事業① 連携・情報収集事業  
生育域外保全を行っている北里大学薬学部附属薬用植物園、および新宿御苑を視察した。右写真は新宿御苑でのハナシノブ（国内希少野生動植物種）の域外保全の様子。



事業② 生育調査・胞子培養事業  
本年度は生育調査を行い、対象5種7カ所で植生調査、個体数計測を行った。

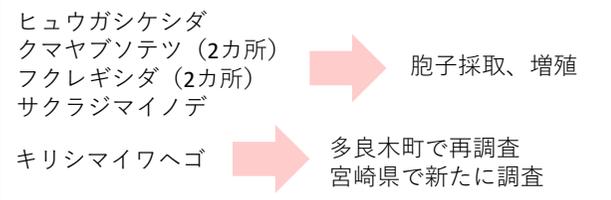
事業③ 生育域外保全の環境作り事業  
センター内に域外保全の場として、簡易パイプハウスを設置した（右写真）。



## 得られた成果

ヒュウガシケシダは山鹿市で約30個体、クマヤブソテツは水上村で60個体、八代市で10個体、フクレギシダは天草市で126個体、苓北町で39個体、サクラジマイノデは伊万里市で1個体の生育を確認することができた。すべての箇所で見つけられた個体を採集した。キリシマイワヘゴは生育地を見出せなかった。また、他施設の視察を踏まえ、当センター内に域外保全施設を設置した。次年度は胞子を採取し増殖、キリシマイワヘゴの再調査（本年度再発見された宮崎県を含む）を中心に事業を行う。

事業終了後は当センターで永続的に生育域外保全を図る。



次年度の主な事業の流れ